

2015(平成27)年度用



## 国際交流事業助成報告書

平成 28 年 4 月 20 日

公益財団法人 小西国際交流財団 御中

### 【事業報告者】

申請団体/ 代表者名	市橋尚子	
住所	〒	TEL FAX
担当者名		
自宅住所	〒	TEL
mailアドレス		

※個人申請の場合は申請者名を記入

### 【事業の概要】

1. 事業名称又は課題

「漫画と翻訳」をテーマとしたトークショー

2. 共催及び後援等支援団体名

なし。

3. 助成金額と申請時の助成金の使途 (実際の使途は、6. 会計報告に記入して下さい)

(※ 他の機関からの助成がある場合は、この事業に要する総費用 円) <当初の助成金の使途> ※ 当初の予定と差異が発生している場合は、理由を記入して下さい
--

#### 4. 事業の実施概要

日時:2016年2月9日(火)18時30~20時まで

場所:パリ日本文化会館 小ホール

実施概要:フランスでは、以前から日本の漫画は大変人気があり、一つの「文化」として捉えられています。漫画の中に登場する背景を通して、日本人の生活振りを身近に感じるフランス人も多く、漫画を通して親日家が増えていると言っても過言ではありません。また漫画を原語で読みたいために、日本語を勉強する学生も大変増えています。とはいえ、フランスでは当然に日本の漫画はフランス語で発行されている訳ですが、実際の翻訳事情やその苦労は全くと言って良いほど知られていません。そこで、パリで日本の文化をパリで日本の文化を紹介する最高機関である、「パリ日本文化会館」において、フランスで活躍をする日本の漫画家かわかみじゅんこさんと、その作品をフランス語に訳している柿崎美里さんに対して、2012年小西億歳交流財団の文学翻訳賞を受賞され、そして自らも漫画翻訳を手掛けられる、パトリック・オノレさんを聞き手として迎え、3人のトークショーを開催しました。

またこのトークショーを通して、参加者に漫画を介して、正に漫画に登場するシーンでもある、こたつの上にみかんを置き、鉄の土瓶でお茶を飲みながらトークを展開していただくという、漫画の中から、正に抜け出したかのような演出も行いました。

#### 5. 実施した事業の成果及び改善点

当日は悪天候だったにも関わらず、多くの参加者で賑わい、申し込み時点でも早くから満席となり、開催の1週間前には、既に申し込みを閉め切るという反響でした。参加者は10代から80代までと幅広く、「漫画とその翻訳」について、興味を持ってくださる方々が、いかに多いかを実感しました。

アンケートを実施した結果、回収した89パーセントの参加者から、「大変満足、満足」という結果が得られました。評価としては、主に以下の通りとなります。

- ・テーマも登壇された方も非常に興味深いものだった。
- ・翻訳について多くのことを学ぶことができて、非常に興味深かった。
- ・演出のお陰で、とても雰囲気良く感じられた。
- ・取り上げられた内容は、翻訳家の仕事を理解する上で非常に有益だった。
- ・自分は漫画の翻訳を始めたばかりなので、講演会で多くを学び、仕事にも役立ちそうだ。
- ・翻訳というのは言葉そのものだけでなく、文化的背景なども含まれていて、そういった難しさについてプロの方からお話を聞ける機会はなかなかないので、興味深かった。
- ・とてもいろいろなことが良くわかり、またとてもくつろいだ、打ち解けた感じがしてとてもよかった。
- ・非常に心地よい雰囲気だった。
- ・リラックスした雰囲気である一方で、好奇心を刺激された。
- ・テーマ設定が興味深かった。

・翻訳の仕事の実際的な面を垣間見ることができた。また、マンガを通じて日本とフランスとの文化の違いを理解するというのはとても興味深かった。

・様々な興味深い例を使って解説していたのが良かった。

また「やや不満」「不満足である」と答えた人はごくわずかでしたが、その理由として以下の点が挙げられました。

・アイディアは独創的だが、進行が冗長に感じられた。本の一節を読み上げるよりは、聴衆が知らないことについて話した方が良かったのでは？

・プロシュア（会館発行の催し事前案内）に示された講演会のタイトルと、実際の中身が全く合っていないかった。

・あまりダイナミックじゃなかった。

仮にこれらの意見が大半であれば、大いに反省し、これからの活動に繋げなければと思いますが、タイトルに関しては、参加者の事前の想像やイメージがかなり左右されるのではと感じました。但し、タイトルの設定は非常に大事であるという再認識を行いました。

この度は、小西国際交流財団からの助成を行って頂きましたお陰で、文学の翻訳とはまた一味違った、「漫画」に対する翻訳においても、いかに翻訳者の苦労や思慮がある上で、フランスで広く日本の漫画が慣れ親しまれているかを知って貰える機会になり、大変やり甲斐がありました。報告と共に、ここにお礼申し上げます。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

【パリ日本文化会館告知用小冊子】

[ 掲載ページ P.27 ]



Rencontre

Mardi 9 fév à 18h30 / Petite salle (9.2.04 <haus>)

## Manga et traduction

Entrée libre | Ouverture réservation ([www.mcjp.fr](http://www.mcjp.fr)) 9 janvier

Une mangaka qui vit et travaille en France... Un manga qui parle du dépaysement culturel d'une famille japonaise qui déménage en France... Un manga qui a été publié en français avant d'être publié au Japon... Sa traductrice... C'est l'occasion de parler de manga et traduction. Et si dans les mangas, le texte était aussi (ou encore plus ?) important que le dessin ? Comment les traducteurs font-ils pour transmettre la richesse des histoires et la complexité des personnages ? Peut-on avoir confiance ?

Avec Junko Kawakami, mangaka, auteur de *It's your world* (2008, éd. Kana) et de *Pari-Pari Densetsu* (inédit en français), et Misato Kakizaki-Raillard, traductrice de *It's your world* et de

### ✿対 談✿

日 時 : 2月9日 (火) 18時30分

場 所 : 小ホール (1階)

タイトル : 「漫画と翻訳」

入場無料、要事前申込 (1月9日開始)

フランスに住み、フランスで活躍する1人の女性漫画家がいる…。彼女は、フランスに移住することによって文化的違和感を体験する、ある日本人一家の漫画を描いた…。この漫画は日本で出版される前にフランス語で出版されている…。それを翻訳した1人の女性翻訳家の存在…。

これは、漫画と翻訳というテーマの対談企画である。もし漫画の中のテキストがイラストと同じくらい(もしくはそれ以上に)重要なものであるとしたら？ストーリーの豊かさや登場人物の複雑さを読者に伝えるために、翻訳者がどのような工夫をしているか、皆様はお分かりだろうか？

『パリの鈴木家』(原作タイトル: *It's Your World*, カナ出版社, 2008年)、『パリパリ伝説』(フランス語版なし)の作者として知られる漫画家かわかみじゅんこと、『ドラえもん』(藤子F不二雄、カナ出版社)や『パリの鈴木家』の翻訳を手掛けた柿崎=ライヤール・美里が対談を行う。聞き手は、『のんのんばあとおれ』(水木しげる、コルネリウス出版、2006年)の翻訳者、パトリック・オノレ。

# 【トークショーの様子】

